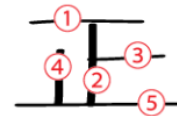


「正」の字、江戸時代までは「玉」という字を使っていた



ご存じ「正の字」 正の字は中国や韓国でも使われているようです。

共に漢字を使う文化圏ということですね。ところが日本では江戸時代までは

「玉」という字を使っていたようです。理由は商人の使うそろばんの玉が由来するとか、金とか銀の塊を玉として数えていたとか諸説あるようです。

ではなぜ明治時代になって「玉」をやめて

しまったのかはわかりませんが、数える際には通常の書き順ではなく、横に3本の線 → 縦の線 → 点と書いていたそうです。



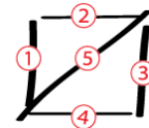
### 外国で主に使われている数え方



さて漢字を使う漢字文化圏では「正の字」ですが、非漢字文化圏ではどのような数え方をするのでしょう。一番よく使われているのは「Tally (タリー)」と呼ばれるこの数え方。

5を1つの単位として数えるのは共通なのですね！ 英語教室でのグループ対抗合戦でよく使いました。それ以外にも

どこか「升」の字、「冷やし中華あります」などの「ます」を漢字にしてみましたですが… Tally marks used in **France, Spain**, their former colonies and **Brazil**. 1 to 5 and so on. These are most commonly used for registering scores in **card games**, like **Truco**



言われてみれば「確かに」なのがこれ。人によって書き順が違う様ですが、わかりやすいし、星が並んだときはちょっと格好いいかもしれません。



### tally の語源 切る； retail と detail

**retail** (小売り)と **detail** (詳細)。似てますね。どっちにも tail が入ってます。**tailor** (尻尾) の tail ではなく (仕立て屋)の tail だと思えば覚えやすいです；「切る」です。

**retail** は、「再び、続けて、(re)切る」で、「切り売り」「小売り」。

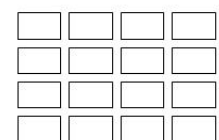
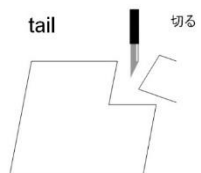
**detail** の de は *de-* "entirely", detach (取り外す)など「分離」の de です。

a cutting in pieces 「細かく切り刻む」で「詳細」という意味になります。

**tally** も仲間で、「切り枝、刻み目をつけた棒」→「(貸借の金額を刻んだ)割り符、対の片方、つけ札勘定、計算」 from Latin *talea* "a cutting, rod, stick"

「正」→「玉」→ **tally, tailor, retail, detail** 続きのお話でした。

**entail** (必然的な結果) intaglio (凹版) 人名 Taylor (テイラー) 参考 すずきひろし氏



detail